

5 沿 革

昭和37年

- 4. 2 出水市消防署開署式
辞令交付（4月1日は日曜日のため）
市長 渋谷 透氏 消防長 田上 衍氏 消防署次長兼庶務係長 栢山 喜雄氏
警防係長 松浦 達蔵氏、甲部に分隊長以下6人、乙部に分隊長以下6人の体制で
消防長を含め実員13名
前団長 井島 幸雄氏退団 新団長 金子 文一氏就任
- 4. 27 水槽付ポンプ自動車（銀河号）配置
- 5. 7 消防署庁舎竣工検査
- 5. 8 庁舎移転
- 7. 13 庁舎落成式
- 9. 14 署と水槽付ポンプ自動車に無線機取付
- 10. 26 促進会より風速計寄贈
- 10. 31 職員2人採用
- 11. 10 蕨島警鐘台落成

昭和38年

- 2. 1 辞令交付式 実員15人
事務分掌制定
- 4. 1 消防署発足1周年記念パーティー
- 11. 6 県消防会館落成式
- 12. 26 出水市消防賞じゅつ金条例制定

昭和39年

- 1. 22 専売公社自衛消防隊出初式
- 12. 15 職員1人採用 実員16人

昭和40年

- 4. 1 消防団員定数345人に改正
- 8. 25 出水市消防署事務決裁規程公布
- 10. 13 第6分団運搬車貸与式

昭和41年

- 2. 16 消防ポンプ自動車（矢筈号）配置
- 4. 1 消防本部（署）
水槽付消防ポンプ自動車 1台

- | | | |
|--------|-------------------|-----------|
| | 消防ポンプ自動車 | 1台 |
| | 赤バイ | 1台 |
| | 消防団 | |
| | 消防ポンプ自動車 | 5台 |
| | 可搬ポンプ積載車 | 1台 |
| | 可搬ポンプ | 29台 |
| | 消防団員 | |
| | 1本部 7分団 | 345人 |
| | 消防本部 | |
| | 消防長(署長) | 1 |
| | 次長(庶務係長) | 1 |
| | 庶務係 | 3 |
| | 警防係(長) | 9 |
| | 予防係(長) | 9 |
| | 計 | 25人 |
| 7. 18 | 署に副分隊長制導入 | |
| 9. 1 | 消防団操法競技大会(於 製紙工場) | |
| | 優勝 自動車 | 第2分団 |
| | 可搬 | 第5分団(新蔵班) |
| 10. 10 | 体育の日誕生 | |

昭和42年

- | | |
|--------|-----------------------|
| 2. 10 | 仮眠室落成、訓授室新設 |
| 2. 11 | 建国記念日制定 |
| 2. 21 | 行政監査 「救急業務」 |
| 4. 1 | 署発足5周年、士長2人昇任、副分隊長となる |
| | 司令長 1 司令 1 司令補 1 士長 4 |
| | 消防士 18 合計25人 |
| 4. 17 | 映画「同期のさくら」出水市内でロケ始まる |
| 5. 1 | 消防長は市長 渋谷 透氏兼務となる |
| 6. 30 | 署長 田上 衍氏退職 |
| 7. 1 | 署長心得に次長 栢山 喜雄氏就任 |
| 9. 24 | 第7分団自動車車庫落成(荒崎) |
| 10. 23 | 救急科第1期生2人入校 |
| 11. 13 | 救急隊編成 |
| 12. 15 | 救急車入庫検収、即日業務開始 |

昭和43年

- | | |
|-------|-----------------|
| 1. 17 | 消防大学校研修科に栢山司令入校 |
|-------|-----------------|

- 2. 7 救急車無線機取付
- 2. 9 矢筈号に無線機取付
自家用発電機取付
- 3. 7 自治体消防発足 20 周年記念全国消防大会に金子団長以下 10 人参加
全国消防大会式典（於 日本武道館）
出水市 日消表彰旗 団消竿頭綬 受章
- 4. 1 消防団員定数 333 人に条例改正
消防署実員 25 人
- 7. 20 消防本部所在地 出水市緑町 1 番地に変更

昭和 44 年

- 3. 4 市営球場開き プロ野球オープン戦 西鉄対広島
- 3. 5 農業気象観測 農林課より引継ぐ
- 3. 14 消防団無線機設置 10 基 団長 1 副団長 2 分団長 7
- 8. 21 運搬車貸与式 3 台 第 4 分団第 2 部、第 5 分団第 2 部、第 7 分団第 2 部
- 8. 28 第 5 分団第 2 部車庫完成
- 9. 1 署長に栢山 喜雄氏就任、次長に松浦 達蔵氏就任
- 9. 19 第 4 分団第 2 部車庫完成検査

昭和 45 年

- 3. 2 1 日消防署長（市婦人会長他 3 人）初めての試み
- 3. 9 救急業務 高尾野町との応援協定設立
- 5. 11 団長に宗像 末義氏、副団長に吉田 国義氏、田上 国志氏就任
- 6. 3 助役に消防長兼公室長 税所 重蔵氏就任
- 9. 12 消防長事務取扱に助役 税所 重蔵氏就任
- 10. 2 第 5 分団車庫落成
- 10. 7 運搬車貸与式 第 3 分団第 2 部・第 3 分団第 3 部
- 10. 14 第 3 分団第 2 部・第 3 分団第 3 部車庫落成式

昭和 46 年

- 7. 6 東町と救急業務応援協定締結
- 7. 30 出水警察署に消防無線貸与
- 8. 24 午後 3 時 59 分大井手井堰において水難事故発生
戸崎 和弘消防士二次災害により逝去
- 8. 26 故戸崎司令補 密葬
- 8. 28 故戸崎司令補 市葬 於 出水公会堂
- 9. 22 消防職員 30 人に定数条例改正
- 10. 6 故戸崎司令補に出水市消防賞じゅつ金支給
- 10. 7 故戸崎司令補 勲七等青色桐葉章受章

- 10. 25 車庫（名古・田原）落成
- 11. 10 出水病院から潜水機材 2 組寄贈
- 12. 1 運搬車庫竣工検査（名古・田原）
- 12. 13 第 2 分団自動車部に 2 代目「わかあゆ」貸与式
ホース乾燥台落成 田原・名古
- 12. 22 運搬車貸与式 2 台
第 5 分団第 3 部（名古）
第 6 分団第 3 部（田原）

昭和 47 年

- 1. 4 消防臨時職員辞令交付 3 人 実員 27 人
- 1. 14 職員 1 人退職、実員 26 人
- 1. 25 署庁舎仮眠室・事務室拡張工事着工
- 3. 31 第 5 分団自動車部に消防ポンプ自動車貸与式
- 4. 1 職員 3 人採用、実員 29 人
野田村との救急業務応援協定締結
消防署発足 10 周年
消防署実員 30 人 消防団実員 312 人

昭和 48 年

- 3. 1 患者搬送車（トヨペット クラウンバン 2,000 cc）出水ライオンズクラブ寄贈
- 4. 2 庶務係に日勤 2 人配属 実員 32 人
- 4. 6 職員 6 人採用、実員 38 人
- 4. 24 職員 1 人退職、実員 37 人
- 8. 1 職員 5 人採用、実員 42 人
- 8. 28 スノーケル車（三菱ふそう 16m級）配置

昭和 49 年

- 4. 1 出水地区消防組合設立
管理者職務執行者に出水市長 渋谷 透氏就任
消防本部発足
消防長事務取扱に助役 税所 重蔵氏就任
本部次長兼署長に栢山 喜雄氏就任
消防組合職員 27 人（出水市 13 人、高尾野町 9 人、野田町 5 人）採用
出水市から 2 人の職員派遣
職員定数条例が改正され、定数 67 人となる
- 4. 15 第 1 回出水地区消防組合議会開催
管理者に出水市長 渋谷 透氏、副管理者に高尾野町長 川原 真蔵氏、野田町長 松ヶ角 友大郎氏、監査委員に若松 壱氏（学経）、四位 靖夫氏（議選）、議長に御幸 為

喜氏、副議長に富吉 徳蔵氏選出

- 8. 15 消防組合職員 1 人退職
- 8. 31 出水市消防本部・署閉庁 職員は消防組合へ派遣 37 人
- 9. 1 出水地区消防組合業務開始
1 本部 1 署 1 分署、定数 67 人 実員 65 人
消防車両 7 台（水槽付消防ポンプ自動車 1 台、消防ポンプ車 2 台、スノーケル車 1 台、救急車 2 台、指令車 1 台）の陣容で業務開始
- 9. 11 消防長 税所 重蔵氏、出水市長選挙出馬のため退任、後任は本部次長 栢山 喜雄氏が職務代理
- 10. 31 管理者 渋谷 透氏 出水市長勇退により退任
- 11. 19 管理者に出水市長 税所 重蔵氏就任
議長に宗像 末義氏就任
- 12. 1 消防長事務取扱に市長 税所 重蔵氏就任
本部次長兼署長 栢山 喜雄氏退職、後任に松浦 達蔵氏昇格、定数 67 人 実員 64 人
- 12. 14 職員 1 人退職、定数 67 人 実員 63 人

昭和 50 年

- 1. 18 救急車（トヨタ 2B）日本損害保険協会寄贈、分署に配置
- 1. 20 分署救急業務開始
- 2. 20 消防長事務取扱に出水市助役 田島 清俊氏就任
- 3. 27 分署に無線固定局（NEC 10W）設置
- 4. 1 野田村町制施行
職員 2 人採用、定数 67 人 実員 65 人
- 4. 17 職員 1 人退職、定数 67 人 実員 64 人
- 5. 16 副管理者に高尾野町長 鳥丸 正登氏、副議長に松元 貞雄氏、監査委員（議選）に連尺野 繁氏就任

昭和 51 年

- 1. 19 阿久根地区消防組合と消防相互応援協定締結
- 3. 31 消防長事務取扱 田島 清俊氏退任
- 4. 1 専任消防長に出水市財政課長 浦崎 実氏就任、定数 67 人 実員 64 人
- 9. 1 本部次長兼署長 松浦 達蔵氏退職、定数 67 人 実員 63 人
- 11. 16 職員 1 人退職、定数 67 人 実員 62 人
- 11. 17 議長に山本 武充氏就任
- 12. 6 水槽付消防ポンプ自動車（銀河号：日野 II 型）更新購入、本署に配備
- 12. 9 救急車（トヨタ 2B）日本損害保険協会寄贈、本署に配備

昭和 52 年

- 1. 11 救助技術訓練塔竣工

- 3. 24 本署無線基地局（NEC 10W）更新設置
- 4. 1 職員1人退職、出水市役所へ 定数67人 実員61人
- 4. 29 元出水市消防本部消防長 田上 衍氏 春の叙勲で勲五等瑞宝章受章
- 6. 14 仮眠室にクーラー設置、本署2基、分署1基
- 9. 9 副管理者に野田町長 満武 勝夫氏就任
- 11. 13 患者輸送車（トヨペット クラウンバン 2,000 cc 移動式担架・人工蘇生器付）
出水ライオンズクラブ寄贈、本署に配備

昭和53年

- 4. 1 職員定数条例が改正され、定数69人となる
職員4人採用、定数69人 実員65人
- 4. 7 職員1人出水市から派遣、定数69人 実員66人
- 4. 13 出水ライオンズクラブに紺綬褒章が授与される（患者輸送車寄贈）
- 11. 17 議長に植木 龍男氏就任

昭和54年

- 4. 1 定数69人 実員66人
- 5. 1 本署分隊編成から小隊編成となる
- 5. 28 副議長に遠竹 昭知氏、監査委員（議選）に大迫 喜行氏就任
- 6. 30 消防長 浦崎 実氏退任、出水市水道課へ
- 7. 1 消防長に出水市企画課長 岩長 栄次氏就任
本部次長兼署長に中野 宏氏就任
- 10. 2 救急車（トヨタ 2B）日本消防協会寄贈、本署に配備

昭和55年

- 4. 1 定数69人 実員66人
- 6. 27 事務連絡車（スズキ 軽ワゴン）購入、分署に配備
- 10. 14 大口市外三町消防組合と消防及び救急相互応援協定締結
- 11. 26 議長に門田 重人氏就任

昭和56年

- 1. 23 小型動力ポンプ（トーハツ C-1級）購入、本署に配備
- 4. 1 定数69人 実員66人
- 4. 12 職員1人退職、定数69人 実員65人
- 4. 13 職員1人採用、定数69人 実員66人
- 10. 27 消防ポンプ自動車（矢番号：日野 CD-II型）更新購入、本署に配備
- 11. 3 元出水市消防本部次長兼署長 松浦 達蔵氏 秋の叙勲で勲六等瑞宝章受章
- 12. 2 救急車（トヨタ 2B）日本損害保険協会寄贈、分署に配備

昭和57年

- 4. 1 祁答院地区消防組合、水俣芦北消防組合と消防及び救急相互応援協定締結
定数 69 人 実員 66 人
- 6. 3 指令車（日産 セドリックバン 2,000 cc）更新購入、本署に配備
- 10. 29 消防ポンプ車（紫尾号：いすゞ CD-I 型 ホースカー付）更新購入、分署に配備
- 11. 16 議長に山道 与市氏就任

昭和58年

- 3. 29 監査委員（学経）に中野 吉人氏就任
- 4. 1 定数 69 人 実員 66 人
- 5. 8 管理者 出水市長 税所 重蔵氏死去
- 5. 28 監査委員（議選）に大迫 喜行氏再任
- 5. 29 事務連絡車（スズキ 軽ワゴン）購入、本署に配備
- 6. 27 管理者に出水市長 溝上 巖氏就任
- 9. 30 消防長 岩長 栄次氏退任、出水市総務課へ
- 10. 1 消防長に出水市立病院事務長 有村 政輝氏就任

昭和59年

- 3. 5 救急車（トヨタ 2B）日本損害保険協会寄贈、本署に配備
- 4. 1 定数 69 人 実員 66 人
- 5. 22 広報車（日産 ブルーバード 1,500 cc）購入、本署に配備
- 11. 22 議長に武下 敬蔵氏就任
- 11. 22 マイクロバス（日産 キャラバン 2,000 cc）日本防火協会寄贈

昭和60年

- 1. 31 消防長 有村 政輝氏退任
- 2. 1 消防長に本部次長 中野 宏氏就任
- 3. 28 監査委員（学歴）に中野 吉人氏再任
- 4. 1 職員 2 人採用、定数 69 人 実員 67 人
- 5. 28 副議長に連尺野 繁氏就任、監査委員（議選）に大迫 喜行氏再任
- 10. 1 職員 1 人退職、高尾野町役場へ、定数 69 人 実員 66 人
- 11. 8 救助工作車（日野 CD 型）購入、本署に配備
- 12. 1 川内地区消防組合と消防及び救急相互応援協定締結

昭和61年

- 4. 1 署長に今林 祐信氏就任
職員 3 人採用、定数 69 人 実員 69 人
- 9. 30 職員 3 人退職、出水市役所へ 2 人、野田町役場へ 1 人 定数 69 人 実員 66 人
- 11. 21 議長に糸田 熊吉氏就任

昭和62年

1. 31 副管理者 野田町長 満武 勝夫氏死去
2. 19 収入役 奥村 正夫氏退任
2. 20 収入役職務代理者に出水市事務吏員 宮下 藤吉氏就任
救急車（日産 2B）日本損害保険協会寄贈、本署に配備
3. 24 副管理者に野田町長 宇都 忠男氏就任
監査委員（学経）に中野 吉人氏再任
4. 1 職員3人採用、定数69人 実員69人
5. 21 副管理者に高尾野町長 池田 正明氏就任
副議長に尾野島 平氏就任、監査委員（議選）に大迫 喜行氏再任
7. 3 収入役に出水市収入役 矢原 勇氏就任
7. 7 管理者に出水市長 溝上 巖氏再任
9. 30 職員3人退職、出水市役所へ2人、高尾野町役場へ1人 定数69人 実員66人

昭和63年

4. 1 職員3人採用、定数69人 実員69人
9. 30 職員3人退職、出水市役所へ2人、高尾野町役場へ1人 定数69人 実員66人
10. 15 出水地区消防組合新庁舎起工式
11. 24 議長に山崎 一利氏就任

平成元年

1. 31 救急車（トヨタ 2B）株式会社大和から寄贈、本署に配備
3. 30 監査委員（学経）に中野 吉人氏再任
3. 31 職員1人退職、出水市役所へ 定数69人 実員65人
4. 1 職員3人採用、定数69人 実員68人
5. 29 副議長に山元 一夫氏就任、監査委員（議選）に大迫 喜行氏再任
6. 10 消防組合新庁舎 出水市緑町50番2号に新築落成
6. 11 新庁舎へ移転
6. 24 組合議員 岩下 則道氏死去
9. 4 職員1人退職、実員67人
9. 30 職員2人退職、高尾野町役場へ1人、野田町役場へ1人 実員65人
10. 1 消防本部を2課4係に、署を4係に機構改革
12. 13 訓練塔完成

平成2年

2. 1 消防通信指令台完成（消防緊急情報システムI型）
3. 31 消防長 中野 宏氏を含め職員2人退職 実員63人
4. 1 消防長に出水市総務課長 大石 昇氏就任
職員定数条例が改正され、定数70人となる

- 職員 4 人採用、定数 70 人 実員 68 人
- 9. 30 職員 1 人退職、出水市役所へ 定数 70 人 実員 67 人
- 11. 21 議長に武下 敬蔵氏就任

平成 3 年

- 3. 26 監査委員（識見）に中野 吉人氏再任
- 3. 31 職員 1 人退職、定数 70 人 実員 66 人
- 4. 1 職員 3 人採用、定数 70 人 実員 69 人
- 5. 15 副管理者に高尾野町長 池田 正明氏、野田町長 小園 善行氏就任
副議長に尾野島 平氏、監査委員（議選）に鹿子木 照美氏就任
- 7. 20 管理者に出水市長 矢野 克視氏就任
- 9. 30 職員 2 人退職、出水市役所へ 定数 70 人 実員 67 人

平成 4 年

- 1. 22 水槽付消防ポンプ自動車（銀河号：日野 II 型）更新購入、本署に配備
- 3. 31 次長兼署長 今林 祐信氏退職、定数 70 人 実員 66 人
- 4. 1 次長に富永 和寛氏、署長に阿部 昭雄氏就任
職員 2 人採用、定数 70 人 実員 68 人
- 9. 30 職員 1 人退職、出水市役所へ 定数 70 人 実員 67 人
- 11. 26 議長に下田 敏氏就任
- 12. 14 はしご付消防ポンプ自動車（森田ポンプ 30 メートル級）購入、本署に配備

平成 5 年

- 3. 31 消防長 大石 昇氏退任、出水市市民福祉部へ
- 4. 1 消防長に出水市産業振興部長 前田 純夫氏就任
定数 70 人 実員 67 人
- 6. 10 副議長に尾野島 平氏、監査委員（議選）に田中 義登氏就任
- 12. 6 職員 1 人退職、定数 70 人 実員 66 人

平成 6 年

- 3. 31 消防長 前田 純夫氏退職
- 4. 1 消防長に消防本部次長 富永 和寛氏就任
職員 2 人採用、定数 70 人 実員 67 人
- 7. 4 監査委員（議選）に鹿子木 照美氏就任
- 8. 30 消防組合発足 20 周年記念式典
- 9. 30 査察広報車（トヨタ クラウンバン 2,000 cc）嶋之浦 良文氏寄贈、本署に配備
- 11. 22 議長に上野 角三氏就任

平成7年

- 3. 13 救急車（トヨタ 2B）嶋之浦 良文氏一部寄贈、分署に配備
- 3. 30 監査委員（識見）に中野 吉人氏再任
- 4. 1 定数70人 実員67人
- 6. 19 管理者に出水市長 矢野 克視氏、副管理者に高尾野町長 池田 正明氏、野田町長 小園 善行氏就任
副議長に山門 康之氏、監査委員（議選）に鹿子木 照美氏就任
- 7. 21 収入役に出水市収入役 中満 勲氏就任
- 9. 7 救急車（トヨタ 2B）更新購入、本署に配備

平成8年

- 3. 31 消防長 富永 和寛氏退職、定数70人 実員66人
- 4. 1 消防長に本部次長 阿部 昭雄氏就任、本部次長に坂口 昭夫氏、署長に徳留 隆雄氏就任
職員1人採用、定数70人 実員67人
- 6. 29 事務連絡車（スバル サンバーバン 660 cc）更新購入、分署に配備
- 11. 15 議長に野間口 岩見氏就任
- 12. 19 消防ポンプ自動車（矢番号：日野 CD-II型）更新購入、本署に配備

平成9年

- 1. 17 消防ポンプ自動車（紫尾号：いすゞ CD-I型）更新購入、分署に配備
- 3. 31 消防長 阿部 昭雄氏退職 定数70人 実員66人
- 4. 1 消防長に出水商業高等学校事務長 濱田 守邦氏就任 定数70人 実員67人
- 5. 12 副議長に山門 康之氏、監査委員（議選）に鹿子木 照美氏再任
- 7. 10 出水市針原地区土石流災害発生 21人死亡、負傷者13人、家屋倒壊19棟、半壊1棟、一部損壊2棟
- 11. 3 元出水地区消防組合 出水消防署長 今林 祐信氏 秋の叙勲で勲六等単光旭日章受章

平成10年

- 2. 27 高規格救急自動車（日産 パラメディックII 2,960 cc）購入、本署に配備
- 3. 31 職員1人退職、定数70人 実員66人
- 4. 1 職員1人採用、定数70人 実員67人
高規格救急自動車による高度救急業務開始
- 7. 28 広報車（日産 ダットサンピックアップ 4WD）更新購入、本署に配備
- 11. 20 議長に上野 角三氏就任

平成11年

- 3. 29 監査委員（識見）に中野 吉人氏再任
- 4. 1 定数70人 実員67人

- 6. 30 マイクロバス（トヨタ ハイエース 2,400 cc 15人乗り）更新購入、本署に配備
- 7. 5 管理者に出水市長 渋谷 俊彦氏、副管理者に高尾野町長 平原 三男氏、野田町長 特手 貞雄氏就任、副議長に尾野島 平氏、監査委員（議選）に本城 利明氏、監査委員（識見）に通島 幸一氏就任
- 8. 12 収入役に出水市収入役 戸崎 節夫氏就任

平成12年

- 3. 31 消防長 濱田 守邦氏退任、出水市市民福祉部へ
- 4. 1 消防長に本部次長 坂口 昭夫氏、本部次長に徳留 隆雄氏、署長に武田 勲氏就任
職員1人採用 定数70人 実員67人
- 5. 2 元出水地区消防組合職員 富永 登氏 春の叙勲で勲六等瑞宝章受章
- 6. 28 事務連絡車（ダイハツ 軽四輪貨物自動車）購入、本署に配備
- 11. 20 議長に税所 司氏就任

平成13年

- 4. 1 地球温暖化防止活動実行計画により活動開始（出水市、北薩広域行政事務組合、出水地区消防組合）
定数70人 実員67人
- 5. 23 副議長に浦崎 義俊氏就任
監査委員（議選）に堀口 文治氏就任
- 10. 22 石坂分署庁舎建設着工
- 11. 29 救助工作車（日野 II型）更新購入、本署に配備
- 12. 10 通信指令装置の機器等搬入始まる

平成14年

- 1. 25 消防緊急通信指令施設（I型）完成
- 2. 1 消防緊急通信指令施設（I型）運用開始式
- 2. 4 職員1人死亡退職、定数70人 実員66人
- 3. 8 石坂分署庁舎完成
- 3. 11 石坂分署新庁舎業務開始
- 3. 29 石坂分署新庁舎落成式
- 3. 31 職員2人退職、定数70人 実員64人
- 4. 1 署長に出水市市民福祉部保育園園長 宮下 明雄氏就任
職員3人採用、定数70人 実員68人
- 5. 20 はしご車オーバーホール（9月30日まで）
- 11. 29 議長に大石 昇氏就任

平成15年

- 2. 28 高規格救急自動車（日産 パラメディックII型 3,500 cc）購入、石坂分署に配備

- 3. 28 監査委員（識見）に上原口 茂氏就任
- 3. 28 石坂分署高規格救急自動車運用開始式
- 3. 31 消防長 坂口 昭夫氏退職、定数 70 人 実員 67 人
- 4. 1 消防長に本部次長 徳留 隆雄氏、本部次長に宮下 明雄氏就任
職員 2 人採用、定数 70 人 実員 69 人
石坂分署高規格救急自動車による高度救急業務開始
潜水救助業務開始
- 7. 23 熊本県水俣市宝川内地区土石流災害による行方不明者捜索に潜水救助隊を含め延べ 44
～25 人応援出動
- 7. 30 副議長に尾野島 平氏就任
監査委員（議選）に川畑 寿昭氏就任

平成 16 年

- 3. 31 職員 3 人退職、実員 66 人
- 4. 1 消防長に本部次長 宮下 明雄氏、本部次長に内村 悟氏、署長に下島 重弘氏就任
職員 1 人採用、定数 70 人 実員 67 人
- 11. 3 元消防長 中野 宏氏 秋の叙勲で瑞宝双光章受章
- 11. 24 議長に田頭 良成氏就任

平成 17 年

- 4. 1 職員 3 人採用、定数 70 人 実員 70 人
分署分隊編成から小隊編成となる
- 5. 23 副議長に餅井 敏郎氏就任
監査委員（議選）に上原 眞吉氏就任

平成 18 年

- 3. 12 出水市、高尾野町及び野田町の廃置分合により、出水地区消防組合が解散となる。
- 3. 13 「新出水市」の誕生により、消防本部名が出水市消防本部に、消防署名が出水市出水消防署となる。
職員定数条例が改正され、定数 75 人となる 定数 75 人 実員 71 人
総務課が消防総務課となり、消防総務課に通信指令係、警防課に消防団係が新設され、職員 1 人が増員される。
旧出水市消防団、旧高尾野町消防団及び旧野田町消防団が統合され、「新出水市消防団」が誕生、16 分団 29 部にて、団長兼出水地区団長に野間口 岩見氏、高尾野地区団長に尾野島 俊光氏、野田地区団長に上原口 茂氏、出水地区副団長に平井 勝也氏及び外良徳氏、高尾野地区副団長に坂木 良次氏、野田地区副団長に迫口 信幸氏就任
定数 493 人 実員 488 人
- 4. 1 団長兼出水地区団長に平井 勝也氏、高尾野地区団長に尾野島 俊光氏、野田地区団長に上原口 茂氏、出水地区副団長に外 良徳氏及び安田 悟氏、高尾野地区副団長に坂

木 良次氏、野田地区副団長に迫口 信幸氏就任

定数 493 人 実員 488 人

7. 22 県北部豪雨災害発生
～23 米ノ津川の春日橋下流右岸などが越水し、栄町地区から六月田地区の 287ha、1,300 戸が浸水被害、死傷者なし。
野田川も増水のため堤防がえぐれ、橋の一部が流出。
11. 3 元出水地区消防組合出水消防署長 武田 勲氏 第 7 回危険業務従事者叙勲で瑞宝単光章受章

平成 19 年

3. 7 出水市消防団高尾野第 6 分団に消防ポンプ自動車（三菱 4,070 cc）を更新配備
3. 13 高規格救急自動車（トヨタ ハイメディック 2,690 cc）購入、本署に配備
3. 31 職員 3 人退職、定数 75 人 実員 68 人
4. 1 次長兼出水消防署長に内村 悟氏就任
職員 4 人採用、定数 75 人 実員 72 人
出水市消防団は地区団制を廃止し、13 分団 29 部に再編される。
団長に平井 勝也氏、副団長に安田 悟氏、外 良徳氏、尾野島 俊光氏、迫口 信幸氏、坂木 良次氏（本部付き）がそれぞれ就任
定数 493 人 実員 489 人
4. 29 元出水地区消防組合消防長 阿部 昭雄氏 第 8 回危険業務従事者叙勲で瑞宝単光章受章
5. 1 女性職員 1 人、出水市役所へ 定数 75 人 実員 72 人
女性臨時職員 1 人採用
9. 11 第 12 分団青木部に小型動力ポンプを更新配備

平成 20 年

3. 6 出水市消防団第 2 分団詰所完成
3. 21 出水市消防団第 3 分団自動車部に消防ポンプ自動車を更新配備
3. 31 消防長 宮下 明雄氏を含め職員 6 人退職、定数 75 人 実員 66 人
4. 1 消防長に次長兼署長 内村 悟氏、次長兼消防総務課長に千々岩 洋一氏、警防課長兼署長に本村 厚志氏就任
職員 5 人採用 定数 75 人 実員 71 人
5. 9 元出水地区消防組合消防長 富永 和寛氏 第 10 回危険業務従事者叙勲で瑞宝単光章受章
5. 20 鹿児島県総合防災訓練が 61 参加団体のもと、出水市（米ノ津川河川敷及び出水市総合運動公園）において実施される
6. 6 はしご車オーバーホール（9 月 26 日まで）

平成 21 年

- 3. 31 消防長 内村 悟氏を含め職員 3 人退職、定数 75 人 実員 68 人
女性臨時職員退職
- 4. 1 消防長に次長兼消防総務課長 千々岩 洋一氏、次長兼署長に本村 厚志氏就任
職員 5 人採用、定数 75 人 実員 73 人
- 4. 29 元出水地区消防組合消防長 坂口 昭夫氏 第 12 回危険業務従事者叙勲で瑞宝双光章
受賞
- 7. 1 出水市消防団に女性消防団員 7 人入団
- 12. 18 水槽付消防ポンプ自動車（銀河号：日野 II 型 キャブ付）更新購入、本署に配備

平成 22 年

- 2. 10 高規格救急自動車（トヨタ ハイメディック 2,690 cc）更新購入、本署に配備
- 3. 30 出水市消防団第 13 分団下名部詰所完成
- 3. 31 石坂分署長 島崎 伸一氏を含め職員 2 人退職、定数 75 人 実員 71 人
- 4. 1 次長兼消防総務課長に本村 厚志氏、出水消防署長に福本 悟氏就任
職員 4 人採用、定数 75 人 実員 75 人
- 4. 29 元出水地区消防組合総務課長 桂木 政利氏 第 14 回危険業務従事者叙勲、元出水市
消防団副団長 玉利 和敏氏 春の叙勲において瑞宝単光章受章
- 7. 4 出水支部消防ポンプ操法大会、県大会は宮崎県で口蹄疫発生のため中止
- 11. 3 元出水地区消防組合消防長 徳留 隆雄氏 第 15 回危険業務従事者叙勲で瑞宝双光章
元出水市消防団 分団長 出口 義信氏 秋の叙勲において瑞宝単光章受章

平成 23 年

- 1. 9 出水市で鳥インフルエンザ発生、消防出初め式を式典のみに縮小
- 3. 11 宮城県沖を震源とするマグニチュード 9.0、震度 7 の東北地方太平洋沖地震が発生。大
地震とその後沿岸を襲った大津波で 15,500 人を超える死者と 7,000 人以上の行方不明
者を出し、甚大な人的、物的被害をもたらす未曾有の大災害となった
- 3. 14 緊急消防援助隊として鹿児島県から出動要請があり、本市消防隊員 8 人を含む 108 人
の鹿児島県隊が出動し、陸路を 3 日かけて宮城県石巻市に到着し、21 日まで行方不明
者の捜索活動を行った
- 3. 31 職員 3 人退職、定数 75 人 実員 72 人
- 4. 1 署長に黒木 義一氏就任、人事異動により 1 人市役所へ出向
職員 3 人採用、定数 75 人 実員 74 人
通信指令室専従の試行開始
- 4. 29 元出水地区消防組合予防課長 本藏 保氏 第 16 回危険業務従事者叙勲で瑞宝単光章
受章
- 10. 26 東日本大震災において緊急消防援助隊を出動させた消防本部として全国消防長会長か
ら消防活動功労者表彰を受賞
- 11. 3 元出水地区消防組合石坂分署長 吉田 剛一郎氏第 17 回危険業務従事者叙勲で瑞宝単
光章受章 元出水市消防団分団長 金丸 信夫氏 秋の叙勲において瑞宝単光章受章

11. 9 東日本大震災において緊急消防援助隊を出動させた消防本部として総務大臣表彰を受賞

平成 24 年

3. 15 消防ポンプ自動車（紫尾号：日野 CD-I 型 キャブ付）更新購入、分署に配備
3. 31 消防長 千々岩 洋一氏を含め職員 2 人退職、定数 75 人 実員 72 人
4. 1 消防長に次長 本村 厚志氏、次長に原 次雄氏、警防課長兼署長に緒方 徹氏就任
職員 3 人採用、定数 75 人 実員 75 人
6. 7 第 6 分団第 2 部に小型動力ポンプを更新配備
11. 3 元高尾野町消防団 尾野島 平氏 秋の叙勲において瑞宝双光章受章

平成 25 年

2. 27 第 8 分団 1 号車部に消防ポンプ自動車更新配備
3. 22 消防ポンプ自動車（矢筈号：日野 CD-II 型）更新購入、本署に配備
3. 31 石坂分署長 竹内 茂幸氏を含め職員 3 人退職
定数 75 人 実員 72 人
4. 1 次長に井出口 司郎氏、警防課長兼署長に山口 義彦氏就任
職員 3 人採用 定数 75 人 実員 75 人
4. 29 元出水市消防本部消防長 内村 悟氏 第 20 回危険業務従事者叙勲で瑞宝双光章受章、
春の叙勲において、元出水市消防団長 野間口 岩見氏 旭日双光章受章、元高尾野町
消防団 団長 片川 二安氏 瑞宝単光章受章
5. 22 はしご車オーバーホール（9 月 30 日まで）
6. 28 第 7 分団第 2 部に小型動力ポンプを更新配備
12. 31 職員 1 人退職、定数 75 人 実員 74 人

平成 26 年

2. 13 消防緊急通信指令施設更新に伴う仮運用開始
3. 4 消防緊急通信指令施設更新
第 6 分団自動車部、第 10 分団 1 号車部に消防ポンプ自動車更新配備
3. 11 消防緊急通信指令施設運用開始式
出水市長 渋谷 俊彦氏、市議会議長 外 徳男氏、総務病院委員長 税所 司氏、富
士通ゼネラル田中 勝浩氏、出水市消防団長 平井 勝也氏ほか出席
3. 31 消防長 本村 厚志氏を含め 3 人退職
定数 75 人 実員 71 人
4. 1 消防長に次長 井出口 司郎氏、次長に出水市安全安心推進室長 原田 公司氏、出水
消防署長に山下 幸男氏就任、人事異動により 1 人市役所へ出向
職員 3 人採用 定数 75 人 実員 73 人
4. 29 元出水市消防本部予防課長 楠元 正夫氏 第 22 回危険業務従事者叙勲で瑞宝単光章
受章

- 5. 13 訓練塔梯子取り替え補修
- 8. 25 第13分団下名部、第13分団餅井部に小型動力ポンプを更新配備
- 10. 29 第7分団自動車部に消防ポンプ自動車更新配備
- 11. 3 元出水市消防団 分団長 松田 貢氏 秋の叙勲において瑞宝単光章受章

平成27年

- 2. 10 高規格救急自動車（トヨタ ハイメディック 2,690 cc）更新購入、分署に配備
- 2. 19 消防救急デジタル無線配備に伴う仮運用開始
- 3. 19 消防救急デジタル無線運用開始
- 3. 31 職員3人退職
定数75人 実員70人
- 4. 1 警防課長兼署長に永池 利美氏就任
職員4人採用 定数75人 実員74人
- 4. 5 消防救急デジタル無線運用記念式
渋谷 俊彦市長、道上 正己議会議長、本城 利明総務病院委員長、富士通ゼネラル田中 勝浩氏、平井 勝也団長等出席
- 5. 1 元出水市消防本部石坂分署長 前田 勝巳氏 第24回危険業務従事者叙勲で瑞宝単光章受章
- 5. 29 午前9時59分、鹿児島県屋久島町口之永良部島の新岳（標高626メートル）で噴火、島民137人は、防災ヘリ、フェリー、海上保安庁の巡視船等で無事避難
- 7. 28 出水市消防団第3分団第2部、第12分団上名部に小型動力ポンプを更新配備
- 10. 19 出水市消防団第8分団2号車部に消防ポンプ自動車更新配備
- 12. 18 査察広報車（トヨタ クラウンバン 2,000 cc）を日本消防協会から出水市消防団に交付された防災活動車（三菱 デリカ 2.35ℓ）に更新、消防本部に配備

平成28年

- 1. 17 (株)ヒラヤマ（高尾野町上水流 1063-1）上水流第一リサイクル処理場において、第一処分場破碎室と破碎機及び隣接する場所に山積みにしてあった廃材（木屑）が燃焼する火災が発生、消防署から10台43人、消防団から12台174人出動、消防署発足以来の約17時間におよぶ消火活動であった
- 3. 31 消防長 井出口 司郎氏を含め6人退職、定数75人 実員68人
- 4. 1 消防長に次長 原田 公司氏、次長兼消防総務課長に大平 伸章氏、警防課長兼署長に川曲 徹氏就任、人事異動により1人市役所へ出向
職員6人採用 定数75人 実員74人
- 4. 14 熊本県熊本地方を震源とするマグニチュード6.5、震度7の熊本地震（前震）が発生
当市は震度3、周辺市町村震度4を観測
鹿児島県から緊急消防援助隊鹿児島県大隊統合機動部隊（13隊51名）を派遣、九州自動車道が地震による通行止めのため、当消防本部が集結場所となる
- 4. 16 熊本県熊本地方を震源とするマグニチュード7.3、震度7の熊本地震（本震）が発生

当市は震度 4、長島町で震度 5 弱を観測

鹿児島県から当消防本部の救急隊 1 隊 3 名に出動要請。緊急消防援助隊鹿児島県大隊第 2 次派遣隊として出動し、第 3 次、第 4 次派遣を行い、同月 26 日まで被災地で活動、当消防本部 9 人を含む計 106 隊 384 人が鹿児島県大隊として派遣された

- 4. 26 平成 28 年 4 月 14 日に発生した平成 28 年熊本地震に伴い、第 45 回九州地区消防救助技術指導及び第 39 回鹿児島県消防救助技術指導会の中止が決定する
- 4. 29 元出水市消防本部出水消防署長 下島 重弘氏 第 26 回危険業務従事者叙勲で瑞宝単光章受章
- 7. 28 出水市消防団第 3 分団第 3 部、第 4 分団第 2 部及び第 5 分団第 3 部に小型動力ポンプを更新配備
- 11. 2 元出水市消防団 副分団長 石元 武久氏 死亡叙勲において瑞宝単光章受章
- 11. 3 元出水市消防団 副団長 前田 博志氏 秋の叙勲において瑞宝単光章受章
- 11. 25 連絡車（ダイハツ ハイゼットカーゴ 0.65ℓ）及び積載用小型動力ポンプ（シバウラ C-1 級）を更新購入、分署に配備

平成 29 年

- 3. 31 平井 勝也団長及び福丸 逸郎副団長退団
- 4. 1 団長に尾野島 俊光氏、副団長に坂木 良次氏及び平井 浩二氏就任
定数 493 人 実員 491 人
人事異動により 1 人鹿児島県消防学校へ派遣教官として出向
定数 75 人 実員 73 人
- 8. 28 出水市消防団第 4 分団第 3 部及び第 5 分団第 2 部に小型動力ポンプを更新配備
- 11. 17 職員 1 人死亡退職、定数 75 人 実員 72 人

平成 30 年

- 1. 30 出水市消防団第 9 分団第 1 号車部の消防ポンプ自動車を小型動力ポンプ積載車に更新配備
- 1. 31 高規格救急自動車（トヨタ ハイメディック 2,690 cc）更新購入、本署に配備
- 3. 31 職員 3 人退職、定数 75 人 実員 69 人
- 4. 1 市役所へ出向していた 1 人が帰任
職員 3 人採用、定数 75 人 実員 73 人
- 4. 29 元出水市消防団 副団長 安田 悟氏 春の叙勲において瑞宝単光章受章
- 12. 7 出水市消防団第 6 分団第 3 部及び第 7 分団第 3 部に小型動力ポンプを更新配備

平成 31 年

- 3. 29 はしご付消防ポンプ自動車（日野 地上高 35m 8,860 cc）更新購入、本署に配備
出水市消防団第 9 分団 2 号車部に消防ポンプ自動車を更新配備
- 3. 31 職員 1 人退職、定数 75 人 実員 72 人
- 4. 1 職員 1 人採用、定数 75 人 実員 73 人
3 者間同時通話通話システム業務運用開始

消防法令における違反対象物の公表制度 条例施行

4. 16 はしご付消防ポンプ自動車運用開始式

令和元年

5. 21 元出水市消防団 団長 平井 勝也氏 春の叙勲において瑞宝双光章受章

7. 18 京都府 京都アニメーション放火事件

死者 36 人 負傷者 34 人

9. 30 職員 1 人退職、定員 75 人 実員 72 人

10. 1 火を使用する設備又は器具を設けた小規模飲食店に消火器の設置が義務化

10. 8 消防団協力事業所表示証交付式

新規事業所 4 事業所 計 46 事業所

10. 31 消防法令における違反対象物の公表制度

公表対象物数 5 件

11. 3 元出水市消防団 副団長 成松 薫氏 秋の叙勲において瑞宝単光章受章

12. 19 消防指令業務の共同化に係る消防長報告会

令和2年

3. 24 出水市消防団第 4 分団自動車部に消防ポンプ自動車更新配備

3. 31 職員 2 人退職、定員 75 人 実員 70 人

3. 31 野口婦人防火クラブ解散

4. 1 消防長に大平 伸章氏就任

人事異動により派遣教官として鹿児島県消防学校に出向していた 1 人が帰任

職員 2 人採用、定数 75 人 実員 73 人

12. 23 救助工作車運用開始式

令和3年

2. 25 出水市消防団第 2 分団自動車部消防ポンプ自動車更新配備、第 11 分団上名部及び第 11 分団下名部に小型動力ポンプ積載車更新配備

3. 31 職員 1 人退職、定員 75 人 実員 72 人

4. 1 職員 1 人採用、定数 75 人 実員 73 人

大川内地区、1 分団 3 部制から出水市消防団第 6 分団自動車部及び第 6 分団第 2 部の 1 分団 2 部制となる。

野田地区、3 分団 6 部制から出水市消防団第 11 分団自動車部、第 11 分団上名部及び第 11 分団下名部の 1 分団 3 部制となる。

12. 24 指揮車運用開始式

令和4年

4. 1 職員 1 人採用、定数 75 人 実員 74 人

4. 1 署長に戸崎 博貴氏就任